

お盆を迎えるにあたって

お盆が近づくと、よく寄せられる質問があります。それは、「今年のお盆が亡くなった〇〇の新盆(初盆)にあたるんですよね?」というものです。それに答えると、「じゃあ、ちなみに、もしお盆期間中に亡くなった場合はどうなるんですか?」と続くことがあります。心の中で「本当に亡くなってから聞けよ」。どうせ面白半分に聞くだけで、聞いてもすぐに忘れるくせに!と思いつつも次のように答えています。

さて、新盆(初盆)はいつなのか。それは「初めて迎えるお盆です」と答えています。と言いますのも、お盆の時期が7月の地域があれば8月の地域もありますが、考え方は同じです。「初めて迎えるお盆が新盆(初盆)」だと私は伝えていきます。

大切な方が亡くなると、悲しむ暇もなく時間が経過します。それがちようどお盆の時期だった場合、バタバタして亡くなった方をお盆らしい雰囲気でお盆として迎える、次の年に迎えるお盆を新盆(初盆)として迎え、大切

な亡き方をゆつくりと偲んでいたらいたらと思うのです。

私たちの浄土真宗のみ教えは、四十九日を過ぎないと成仏できないという教えではありません。煩惱を抱えながらもお念仏申す身にならせていただいたからには、すでにそのまま必ず仏となる身に定まり、いのち終わったそのときに仏になると聞かせていただきます。迷う暇も迷わせる暇もないのです。だから、四十九日が過ぎてないからという心配もいらないのです。

ただし、お寺からの仏事(お参り)では今年の新盆(初盆)のお参りは、昨年のお盆以降今年の7月までに亡くなられた方を対象におつとめいたします」と案内されて営む場合は、その通りですが、みなさんにとつての新盆(初盆)は、初めて迎えるお盆であり、状況によつては翌年に迎えるお盆を新盆(初盆)として迎え、亡くなった大切な方をゆつくり偲び、そして今を生きる私をふり返るご縁とさせていただきます。ただだければと思いません。(齋藤英明)



【二報】

本願寺長野別院は令和7年に創立百年を迎えます。これからも皆さまにお参りいただくための事業として、現在、役員会では次のようなことを計画しています。

◇記念法要(御門主御親修)
令和6年10月26日(土)・27日(日)

◇墓地(南側)参拝通路の整備

◇境内地(南側)整備



凸凹による水たまりからの解放、参拝者用駐車場として便利に利用できるように、また、長期的に機能が持続し、豪雨やヒートアイランド対策としても期待できる透水性コンクリートを用いて行いたい。これに伴って樹木伐採を予定。なお、北側部分については一旦保留。

◇本堂のタイルカーペット化

本堂入口の段差をスロープなどで緩和し、土足のままで入れる本堂とし、内陣よりの一間半は段差を設けて畳を残し、出内陣とする。

◇本堂の鉄製扉の塗り替え

◇本堂と庫裏の間の渡り廊下・階段の手摺改修

◇庫裏回廊の欄干補修

欄干が錆によって腐食して穴ができており、子どもの居場所づくり活動の場でもあることから安全のために。

◇庫裏1階・2階トイレの改修

現代の様式に応じたものにした。特に2階は男女共用となつていため、本堂のトイレのようにプライバシー確保を目的に行いたい。

◇本堂・庫裏の照明をLED化

◇その他

本堂2階入口へのエレベーター設置が議題となりましたが、経費がかなり膨らむことから、優先すべき喫緊の問題点を解決する内容となりました。

また、本堂への階段がわかりにくいことへの対処を講じなければなりません。さらには、庫裏の玄関につきましても、参拝された方が快適に気持ち良く接することができるようにしたいと考えます。

なお、すでに実施したことは次の通りです。

◇本堂耐震診断

◇本堂南側のトイレの改修

◇庫裏講堂、事務所・輪番室のタイルカーペット化

◇墓地(北側)通路の整備

本願寺長野別院からのお知らせ 2022 「夏」 Summer

(長野別院・定専寺・善立寺)

<http://www4.hp-ez.com/hp/naganobetsuin>

御命日法要・常例法座

7月16日(土)・17日(日)

講師 中原 昭俊 師

(兵庫県尼崎市 専正寺住職)

9月16日(金)・17日(土)

講師 丸山 文雄 師

(新潟県新潟市 萬栄寺住職)

10月16日(日)・17日(月)

講師 岡橋 聖舟 師

(京都府和束町 西方寺住職)

※いずれも午後1時30分から

新盆法要

8月10日(水) 午前10時より

秋季彼岸会

9月23日(金) 午後1時30分

墓地・納骨堂をご利用の皆さま、
有縁の方々にご案内いたします。

報恩講法要

10月28日(金)～31日(月)

講師 岩本 孝樹 師

(奈良県奈良市 常蓮寺住職)

禮

毎月17日の常例法座にあわせて開催しています。どなたでもどうぞお参りください。(13時30分)

※「おみがき」7月21日(木)9時30分

禮

7月6日(水)18時から

9月7日(水)18時から

10月5日(水)18時から

テーマ『ひらがな正信偈』

講師 嶋倉 崇雄さん(圓長寺住職)

禮

子

陽

夕

7月24日(日)11時～17時

禮

機



カ

機

受け付けています。ご協力をお願いします。詳しくは別院まで。

お観 (朝)

毎朝7時30分から8時頃まで

毎16日は親鸞聖人の御命日

職員全員出勤しておつとめさせていただきます。皆さんもぜひお参りください。朝7時30分から。

※お経本は用意しています。

本願寺長野別院

「人生講座」のご案内

8/4(木) 13:30-16:30

講

講 『機』が鳴る』

DVD 機

講

本 講

(『たあゑ』機)

このたび、故郷とも呼べる地を原発事故で失った中村敦夫さんの朗読劇『線量計が鳴る』の上映と原発事故後の広報事業の実態調査をしている野池元基さんの講演会を開催することにいたしました。

今、私たちが便利で快適な生活を享受する裏側と側面には、いったいどのような“本当”が隠れているのでしょうか？私たち一人ひとりの足もとと関わりを問う学びになればと思います。

◇8月4日(木)13時30分～16時30分

◇参加費無料

どなたでもご参加ください。

帰敬式で法名を

10月29日(土)

9時30分受付～11時30分

毎年、報恩講法要に併せて行っています「帰敬式」のご案内です。詳しくは別院までお問い合わせください。

TEL 〇二六・二二二・二六二一

『お寺のビジョン機』

このたび私たちの宗派では、『お寺のビジョン作成研修』というオンライン研修を実施します。これは、お寺を取りまく環境を把握し、お寺を支えてくれる人や組織力などと一緒に、これからご門徒はもろんのこと、地域や社会に寺院の役割を通して持続的で実行力あるお寺をめざすと共に、大きく貢献できるお寺をめざすための「ビジョン」を立てるものと受けとめています。

私(齋藤)も参加いたしますが、どなたがご参加いただいても大丈夫です。一緒にお寺の将来を考えてくださいませんか。4回にわたってのオンライン研修です。

7月21日(木) 10時～16時

12月8日(木) 13時30分～17時

10月20日(金) 10時～16時

※4回目だけ午前・午後の開催です。
※オンライン受講のための準備は別院で行います。参加費は無料です。

和の藁 ②

機

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻によって、多くの人が犠牲になっています。ニュースで戦車やミサイルによる爆撃、そして泣いている人々を見ない日がありません。戦争では敵も味方も関係なく、軍人も一般人も関係なく、子どもも大人も関係なく、多くの人が大切ないのちを失い、多くの人が大切な人を失っています。さらに、多くの人たちがその影響を受けています。誰が「得」をしているのでしょうか。その一方で、日本でも「より強力な武器」の必要性を求める声があります。みなさんはどのように考えますか。

お釈迦さまは「仏が歩み行

導、国も町も村も 教

世の中は和に治、陽も月も

明る輝き、風塵 吹き、雨

曲 時に降り、災

害や瘡

な、衆は穢に

暮し、穢を

争



る。友は徳を尊び、思心
を持ち、機を重んじ、互い
に譲る。『機』巻

下。また「殺を闘る友

を見よ。機を執つて打

ツタ(「夕」といわれます。仏法

による私たちの生活が、平和な社会

を必然的に築いていくとある反面、

私たちの行いによつてはさらなる恐

怖を増幅しかねない恐ろしさが指摘

されています。

今ある状態は「やられたらやり返

す」の状態です。これでは同じこと

を繰り返すばかりです。同じことが

繰り返されたならば、そのとき「私」

が危険な戦場に立つことはないかも

知れませんが、子や孫が立たなけれ

ばならないかもしれないのです。だ

からお釈迦さまは「己が身

殺、怨、恨、つて鎮ま

。怨、忘、怨

鎮ま」ともいわれます。

私にできることは何でしょう。ま

ずは、むやみに対立をあおらないこ

とです。ややもすると、自分の考え

こそが正しいからといって相手を否

定することはないでしょうか。たし

かに、間違いを正すことは大切なこ
とですが、その正しい方と何気ないま
わりとの関係と調和
を保つことも大切だ
と思うのです。でも実
は、この点が一番難し
く、エネルギーを要す
るところです。だから
こそ、大切にしたいと
思います。



「私とつね墓」

お墓は亡くなった人を埋葬する場
所です。ただそれだけででしょうか。
お墓が私にどういう意味を持つてい
るのかを考えてみたいと思います。

みなさんは、お墓の前に立ち、墓
石に向かって何をしていますか。静
かに手を合わせる人、お経を読む人、
何も思わない人もいます。ま
た、「どう?」「ねえ」「なあ」と亡き
方に語りかける人もいます。

そして、家族の近況を報告したり、
悩みや愚痴をこぼしたり、人生の大
きな決断を相談されたりするのでし
ょう。また、誰かのために助けを求
めたりする人もいます。もしも

様々な思いの場になっているのが
「お墓」という場所であり、自分で

外の誰にも話すことができないこと
を打ち明けられる安心できる場所
もあるのが「お墓」なのでしょう。

そこには、「私」にとつて大切な人
との切つても切り離せない「つなが
り」と、間違いなく安心できる「関
係」があればこそです。その人(達)
がいたからこそ、「今、私がここに
いる」とはつきり言える関係である
とともに、決して呪つたり、崇つたり
するような関係ではありません。「大
丈夫」「よく頑張っている」と、精一
杯生き抜くことができるよう、大き
く包み込む「願い」のはたらきでつ
ながっているからでしょう。お墓で
様々な思いを抱き、両手が合

さるの、私たちの日常で発生する様々
な出来事や思いがきっかけとなって、
大きなはたらきの中にある「安心」
に包まれるがゆえに、「おかげさま」
と両手が合

さるといだけだのです。
ですから、お墓は亡くなった人のた
めのものであると同時に、それ以
上に残された「私」
のため

にある場所
であり、それを「仏
縁の場」というの
です。(以前の『手
紙』より)

